はばたけ、明日をになう力

新成人者に抱負を聞く

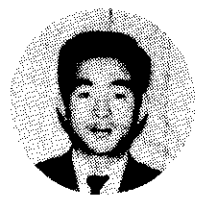
ことしも二四一名の人が成人をむかえられ、新しくおとなとして社会へスタートをきることになりました。

終戦まじかな激動する世相の中に生まれて、すくすくとのびてきた終戦つ子たちの一人一人の胸の中には、これからの人生を生きる夢がめばえているものと思います。

そこで、ことし成人をむかえた人のなかから七名の人にその夢をきいてみました。

今日よりは、自己の行動に責任をもち、たえず他人を考え、社会を考えるとともに、互いが一つの人格として助けあい、励ましあってゆく勇気をもちながら、若いこころをはぐくみ、それぞれの道でがんばってほしいものです。

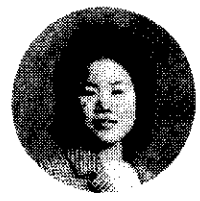
「考える勇気」ある人に



小幡（役場勤務）
梅沢　節夫

長い歴史においてその一時点に存在する自分の生命、その時点のうちでも重要な一転機をなす成年期への移行は「他の人の判断力と悟性への移行」とも思われ、長く、また短くもあった二十年、この成人の日を迎え、希望新たに成人への道を考えてみようと思う。現に幸福は自覚されにくく健康者は健康のしあわせを知らずに過ごしがちです。今後公共の福祉に反しない限り、憲法の保障するあらゆる自由と権利とを有することを保障されている今日しあわせに思い、許された法的自由に自己を解放し、自己のあり方をきめ、そのあり方に対して責任を負う人格的自由をみつめ、与えられた権利で自分で「あえて考える勇気」を持ち、奴隷である事はもちろん恥とするが、思想上の奴隷であることもまた恥じなければならないと思う。しかしこれは利己主義に固まるのでなく、何事においても経験浅い私たちは自分で考え判断する場合誤りも多分にあると思い、たえず謙虚心をすてず、忠告、意見を聞き、真の考える勇気を持つて行こうと思う。また権利だけを主張しがちでよく「今の若い者は」などと聞くが、こういうことも多分に含まれていると思うので、義務の履行を今までとかくルーズになりがちだったが、権利と義務は相互的なものであるという観念を認識していこうと思う

本当のおとなになりたい



小幡（会社員）
高橋　きよ子

一九六四年六月二日、二十才になつて私は何を考えたかしら？「美しい女性になりたい」「誰からも好かれる女性になりたい」……そう「本当のおとなになりたい」の「本当のおとなになりたい」の

です。今日、成人式を迎え、私も成人として認められる事となりました。

おとな！オトナ！大人になったのだ、と喜こんで外見ばかりを真似た大人でなくて、石けんのかおりのするような清潔さ、身体の中からにじみでるような美しさを持つた本当の美しい女性になりたいのです。そのためには良い本を良い映画を、良い音楽をたくさんみたり聞いたりして、今までの小さな自分を大きくしていきたいのです。

昨年、こんな事があつたのです。私のちよつとしたひねくれがもとで相手を傷つけ、自分も傷ついたのです。そして思いきり泣いた後で「そうだ、明日会つたらよーくあやまろう」と思いながら、次の日会つても、前日の気持が表わせないのです。お互いにイヤな思いをしているのに、なぜ、素直になれなかつたのでしようか。？「本当の成人」ではなかつたのです。自分の小さなカラに包まれた小人だつたのです。でもそのカラは一九六四年と共にサヨナラしてきたつもりです。

成人の社会に第一歩を踏み入れた私は、「本当の成人」になるために努力いたします

世界中の「本当の成人」の皆さま、私も仲間入りいたします。

工夫と節度のある農業を

秋畑（農業）
浅香　征夫

まず自分は農家のあとつぎとして、今日きらわれがちな農家が誰にも好まれるような姿になるにはどうしたらよいか考えてみた。

農業の政策や方針が叫ばれているが、他の産業にくらべて遅れているのが農業だと思う。そこで、大きな政策方針と共に自分たちで思いきつた改善をしなくては、農業の進歩は望めないと思う。

一番の問題点は、農家の労働ということになると思う。節度なくいつも働く事は、楽しみを失うことではないでしようか。勤め人と同じように休日をもうけ、仕事と休日をはつきり区別し、仕事には休日を楽しみにして能率をあげる工夫をしてみる。

そこには機械や薬を使つたり、新しい技術も必要だと思う。しかし、この問題は家の収入や経営を向上させ、そして一月に二～三度の休日を実行するのは簡単な問題ではない

しかし、最高の努力と工夫をしたならば、収入や経営に動揺が少しはあつたとしても私はそれでもよいと思う。

収入や経営の拡大や、将来の事も必要だけれども、それよりもその日その日が楽しいよき農業であるならば、少しの収入よりもつともつと、別の意味において大きな収穫になると思う。

成人を迎えたといつても、私たちには、おじ、おば、親がいる。たとえ一人前の人間としてあつかわれても、自分たちで問題を解決することはできない。親や年長者の理解や、しきたり、又封建制をなくし、できる人こそ思いきつて進んで実行するよう希望すると共に、町当局にもご指導をお願いします。

このような問題が、解決することによつて、今日さわがれている農家の嫁の問題などもしぜんになくなつてくるのではないでしようか。

農業への夢を失なわずに

秋畑（農業）
斉藤　京子

新春の喜びと共に成人式を迎え、大変うれしく、心より感謝いたします。

おとなの仲間入りした今日私たちは自分の仕事に責任と誇りを持つて進んで行きたいと思います。農業とは、とかく若い人たちの間できらわれているようです。私も卒業後農業を手伝つてきましたが、一番寂しい事は、仲間が年々少なくなつて行く事です。機械化など叫ばれていますが地域的にもあまり高望みはできそうもありませんので、若い人たちにきらわれないような農家にするのには、おとなの人たちの理解と協力が必要だと思います。主婦の人たちの話しなどを聞いていると、とかく自分の子どもは都会へ都会へと望むのに、家には少しでも農業の経験のある人をなどと、自分勝手な話をときどき耳にし、誠に残念に思います。こんな考えでは、若い人たちの気の進まないのも無理もありません。

もつと若い人たちと話し合いの場などを設け、どうしたら若い人が喜んで働いてくれるか、どうしたらより住みよい農家にできるか、などといろいろな希望などを聞き、真剣に考えて見たらと思うのです。老いも若きもいつしよになつて、農家の生活が今より少しでも明るく、希望の持てる姿になる事が、農業に従事している人の一番の夢であり私たちの希望でもあるのです

新しくおとなの仲間入りした今日、みなさんといつしよに強く考えたい事だと思います。

よりよい人間になること

福島（編物教師）
山田　和子

成人式を迎え、社会から一人前に成長した人間として扱われる。期待していた事ではあるが、その時がきてみると非常に心細く、自分には背負いきれないような重荷を背負わされた感じがする　まだまだ人に甘えていたい。しかしこの様な思の良い考えは許されそうもない。成人社会を構成する一員として、より良い社会を作るために、より良い人間に成長しなければならない。「よりよい人間になる」それは人によつて異なるかも知れないが私はこんな人間になりたいと思いたいと考えている。

(1)どんな環境であつても自分の立場と相手の立場を知り人と対等に話し合い自分のまちがいを素直に認められる人間。

(2)自分の仕事に誇りを持ちいつも明るさを失わず、他人の事でも真剣に考えられるような、心にゆとりをもつた人間。

(3)責任を持つて物事に対し自分の理想像に向つて力いつぱいの努力ができる人間。

そして、成人として扱われる以上、それに答えられるだけの思考力、発表力、実行力を養いたい。ただ言うだけでなく、考えるだけでなく、実行の伴つた人間。むずかしい事である。しかし一日も早くこんな人間になれるよう努力して行きたい。

義務の果せる人間に

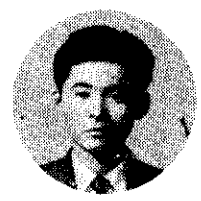
天引（郵便局勤務）
山崎　静

成人となる…。とうとう来るべきものが来たという感じで、成人となる喜びの前に何か不安を感じます。年令の上だけの成人になる事でしたら何の努力をする必要もなく安易な事ですが、名実共に成人となるのは、大変な事だと思います。

今ここに、成人社会への門出に立つて「義務と権利」について考えてみました。今までの私達の日常生活をふりかえつてみますと当然果すべき義務を果さずに権利だけを主張する面が多々ありました。

その方が自分に好都合だからですが、それではやはり周囲の温情、自分自身に甘えているわけであり、これからの私たちには許されないことです。義務を完全に遂行して始めて権利を主張することができるわけで、義務の遂行＝権利の主張という事であり、権利を主張する事が先に立つてはならないと思います。又代議政治である現代の政治機構において代議員を選挙する事も、選挙権を与えられた私たちの義務の一つです。私たちの町、私たちのよりよい社会を造るために井の中のかわずにならず、広い視野を持ち、義務を完全に遂行できる人間を目標に、これからの人生を勉強したいと思います。

社会で必要とされる人間に



天引（農業）
小柏　政美

「自分という人間が、世の中であつてもなくても良いような人間になるな。」これが、今まで私が最も大切と思い、この言葉にそむかないように過ごしてきましたが、これまで以上に強く私の心にとどめなくてはならないものであり成人としていつそう要求されるものであると信じます。

人間として、晩年になつて一生を振り返つて、本当に自分という人間がいたために多少とも世の中のために成つたんだと確信を持てる事ほど、最大の幸福ではないかと思う

今までの二十年間は、そのための基礎知識を学ぶ期間であり、研究し学んだことを成人社会に仲間入りしてフルに活用し、さらに、社会から新しく学び取つて、自己の進歩と共に社会のために尽したいと念願しています。人にはそれぞれ長所短所があり、その能力を十分に発揮するには、おのずから仕事の内容も変わつてくるが、その選んだ仕事がなんであれ、自分に一番適した仕事を通じて社会のために尽せる方が、その人にとつても又、社会にとつても大きな成長が期待できると思う。

成人社会の事については、まだ全然わからないと云つてよいほどしか知らず、今までに遭遇しなかつた事に数多く対面し、まごついたり失敗したりする事もあるだろうと思いますが、以前に学んだ知識を十分に活用し、それ以外にファイトを持つて事に当り、困難も乗り越えたいと思う。

まごころをもつて何事にも努力実行するならば、私の理想とする人間に、多少とも近づけるものと確信し、それに反しないよう努力実行したいと思います。

明治時代は日本史上においても最も花ばなしい発展をとげた時代であり、世界の驚異とされている。ペルリのひきいる黒船四せきにふるえ上がつた幕末の日本はたちまちにして世界の一流国となつた。

その明治時代をつくつた人々は、明治に生れた人々ではない。幕末に生れて、維新当時三十才から四十才台の人々が中心であつた。我々はその事に、特に注意しなければならない。教育勅語や軍人精神という型で教育された人たちでないことに、注意してほしい。（私は教育勅語や軍人精神が悪いとは考えていない。理解と運用が人権尊重に添わなかつたものと見ている）

一方、昭和の敗戦日本は明治の中期以後に生れて、国家中心の思想や偏狭なる愛国精神をたたき込まれた人、国造りの苦難も体験せず、定められたコースの上を進めば出世もできる時代に成人した人たちによつて持ち込まれたものと考えられる。特に、軍人が政治をほしいままにしたのが原因である事は、ご存じの通りです。

敗戦後の日本は、軍国主義時代に迎合しなかつた人たちによつて再建されて現在に至り、世界先進国の仲間にはいり、不死鳥といわれるほど驚くべき改革と発展をなしとげた。敗戦に至らしめた人びとも、戦後を再興した人びとも共に同時代に生れて、国家や民衆の明暗にこのように関係を持つことは、かえりみて、自分たち一人一人の時代の見方、考え方、心の構え方の大切な事をつくづくと感じるわけです。

時＝代＝の＝見＝方

維新当時に、極東の辺地に位して欧米の文化に接することなく、世界のいずれの国よりもおくれた日本、それに比して欧米文化に最も近く位して、日本より早くから交流を受けたトルコ、この両国の現在はいかん。トルコは依然として後進国であり、日本は先進国として指導者の地位にあることを考えれば、先進文化を消化できる民衆を育てた江戸時代に対しても、感謝の念を表し上げる面がありわけないか。ヨーロッパからアフリカ、中央アジアマレー近辺の諸国、支那、朝鮮等の日本に至るまでの途中の諸国には、文明文化を消化する下地ができていなかつたことを示すものではないだろうか。

日本の進歩は、現在の後進国のお手本にならないとしたら、そのように下地とか、基盤がちがうところにあるとのことです。敗戦はしましたが、たちまち再建できるこのような力ある明治・大正の先人に対しても、敬愛の念を持つていただきたいと思います。

アメリカでもヨーロッパでも、日本ブームがしばしば伝えられます。これは、日本への理解が深くなつたからだと申されています。

しかし、明治時代でも三十八年以後、世界中が日本ブームとなり、日露戦争の勝因究明のため、続々と世界の人士が日本を訪れ、戦勝の原因を四十項目も数えあげたほどでした。また、従来、白人は神の選民であり、有色人種は劣等で、白人に奉仕すべく存在するのだというような考え方が、黄色日本が白色露国を倒したことにより、白人にりつぱに対等できる人種があることが実際となり、白人優越感念を放棄しなければならなくなつた驚きは、現今原子爆弾がどうの、宇宙時代が始まつたの、などの比ではなかつたようです。もう六十年も前のことですがそうした明治時代に対しても、再認識の要があると思います。

過去の日本は全部悪いのだ、軍国主義なのだ、封建的だつたのだというようなことは、ひとり日本の歴史的事実と、その時代（世界的）を見ずに論じられては問題になりません。

最近、日本の過去が見直される傾向にあります。

変遷のはげしい時代に成人され、これからの日本の運命を荷負うべき諸さまに対し、時代におぼれることなく、過去先輩の業績にもあたたかい気持ちで見て上げることが、将来に処するよい参考になることと存じます。

教育長　厳　良　勝